



RESPECTion!

～アスリートのために私たちがができるActionを～

RESPECTion!推進委員会

【オリンピック】SNSの誹謗中傷モニタリング24万5493件 削除申請は1919件…日本オリンピック委員会公表

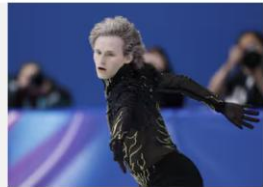
マリニンが中傷被害を示唆「卑劣なオンラインの憎悪が心を攻撃」 フィギュア男子

2026/2/17 01:09

X | ポスト X | 反応

Facebook | 共有 | 印刷 | 記事を保存

スポーツ | 冬季スポーツ | フィギュアスケート



演技するイリア・マリニン＝ミラノ（共同）

フィギュアスケート男子のイリア・マリニン（米国）が16日、自身のInstagramに「卑劣なオンラインの憎悪は心を攻撃し、その恐怖は闇へ引き込む」などと投稿した。誹謗（ひぼう）中傷被害を示唆したとみられる。ミラノ・コルティナ冬季五輪はショートプログラム首位で迎えたフリーで失速し、8位に終わっていた。

試合で歓喜する姿と、座って頭を抱えるシーンを交えた映像も投稿。「強く見える人も、内面には見

安藤美姫「『見苦しい』『日本の恥』『やめろ』が日常茶飯事」10代で直面した“数千通の手紙”や“袋とじ”の過酷な現実

2/19(木) 11:45 配信 232

X | Facebook

ABEMA TIMES



安藤美姫

日本選手が次々とメダルを獲得、熱戦で盛り上がるミラノ・コルティナ冬季オリンピック。しかし華やかな競技の裏で、今問題になっているのが誹謗中傷。

【映像】安藤美姫が過去の酷い誹謗中傷を“ジェスチャー”で伝える様子（実際の映像）

『ABEMA Prime』では、日本選手への誹謗中傷の議論の中で、元プロスケーターの安藤美姫が自身の経験を振り返り、考えを語った。

選手の敵「誹謗中傷」を倒せ

近年、社会問題となつてきているアスリートへの誹謗中傷。日本オリンピック委員会（JOC）はミラノ・コルティナ冬季五輪で、本格的な対策に乗り出す。現地に事務所を設置し、国内の報道機関と連携して24時間態勢でSNSやニュースサイトのコメント欄をモニタリング。内容によってはアスリートに直接連絡する。6日にはLINEやFacebookなどの通信手段も活用。JOCは「選手が最大のバフオーマンズを発見できるうちに対策をしていく」としている。

アスリートへの誹謗中傷は、4年ぶり五輪であるミラノ・コルティナ冬季五輪でも、日本選手が期間中に、本格的な対策に乗り出す。現地に事務所を設置し、国内の報道機関と連携して24時間態勢でSNSやニュースサイトのコメント欄をモニタリング。内容によってはアスリートに直接連絡する。6日にはLINEやFacebookなどの通信手段も活用。JOCは「選手が最大のバフオーマンズを発見できるうちに対策をしていく」としている。

現代社会は、井筒とある。6日にはLINEやFacebookなどの通信手段も活用。JOCは「選手が最大のバフオーマンズを発見できるうちに対策をしていく」としている。

JOC、24時間態勢でSNS監視

JOCは今年度から、選手への誹謗中傷を倒すべく、SNSを監視する。現地に事務所を設置し、国内の報道機関と連携して24時間態勢でSNSやニュースサイトのコメント欄をモニタリング。内容によってはアスリートに直接連絡する。6日にはLINEやFacebookなどの通信手段も活用。JOCは「選手が最大のバフオーマンズを発見できるうちに対策をしていく」としている。

「女子シャワー室で下の隙間からスマホが…」性犯罪も直面 ビーチバレー盗撮問題の今、拭えぬ「ビキニ」の印象に葛藤も

11/16(日) 6:35 配信 1558

X | Facebook

THE ANSWER

ビーチバレー・関口希望インタビュー第3回 現役選手として明かす盗撮問題の事情

スマートフォンが普及し、SNSが発達した現代。選手とファンの距離が縮まり、スポーツ観戦の形が多様化する一方で、課題もある。肌の露出が多い水着でプレーするビーチバレーは、試合会場で盗撮被害も発生している。これまでも女性アスリートが抱える問題を取材してきた「THE ANSWER」は“ビーチバレー界の今”に迫った。盗撮問題の現状、「ビーチバレー＝ビキニ」という根強い印象により、選手が抱える葛藤とは。現役選手・関口希望へのインタビューで掘り下げた。（全3回の第3回、取材・文＝THE ANSWER編集部・山野邊 佳徳）



現役プレイヤーの関口希望が明かすビーチバレー盗撮問題の現状とは【写真：中戸川知世（左）、本人提供】

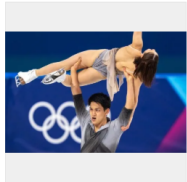
【画像】「デザインがかわいい」 ビーチバレーの片側だけ露出が多くなった水着

五輪金「りくりゅう」木原選手がディープフェイク被害か、衣装の「透け加工」は違法？

2/19(木) 16:30 配信 1574

X | Facebook

弁護士ドットコムニュース



「りくりゅう」三浦瑞穂・木原龍一ペアの演技（写真：ZUMA Press/アフロ）

ミラノ・コルティナ五輪のフィギュアスケート・ペアで金メダルを獲得した「りくりゅう」コンビの三浦瑞穂・木原龍一ペアが、性的改変（ディープフェイク）の被害に遭っている。

【ひどい姿に】改変された画像

X上に投稿された画像によると、標的になったのは木原選手だった。三浦選手をリフトする報道写真が改変され、木原選手の衣装が透けて見えるよう加工されている。

この改変画像は韓国語圏のユーザーによって投稿されたとみられる。背景には、フィギュアスケート競技における男女の衣装の露出度が非対称であることへの問題意識があるようだ。

しかし、日本のファンからは「日本人男性選手のディープフェイクを作るのはやめてください」といった批判の声が上がっている。

深刻化するアスリートをめぐる問題

「アスリートを誹謗中傷しない」
だけではなく
より多くのアスリートが
RESPECTを受けられるACTIONを

近ごろ、SNS上での誹謗中傷や女性選手への性的ハラスメントなどアスリートを取り巻く環境は新たな局面を迎えています。

2025年のスポーツ基本法の改正では、「アスリートを守る」ための取り組みが法律上明確化されました。この改正はスポーツを通じて社会課題を解決し、すべての人が安心して関われる「スポーツ文化の基盤づくり」を目指すものです。私たちの応援のカタチも、時代に合わせて変わらなければなりません。

その想いを形にするために、現役アスリートやOB・OG、有識者らが参画する「RESPECTion!推進委員会」を立ち上げ通年プロジェクトを開始します。

「RESPECTion (リスペクション) ～アスリートのために私たちができるActionを～」

本プロジェクトでは、現役アスリート、団体・企業、メディアが三位一体となり、SNSでの誹謗中傷のほか女性アスリートへの盗撮や性的ハラスメントなど、あらゆる形の「アスリートの挑戦を阻むもの」をなくし、より多くのアスリートがRESPECTを受けられるよう社会的機運を醸成します。

公式SNS
総フォロワー

10万

関連投稿
ハッシュタグ

年間
10万

賛同
団体・企業と
アスリート合わせ

300

ロス夏季五輪

2028



夏季五輪

【定着一般化】テーマ：「広げる」

文化が変わる

高校や大学での特別授業
「RESPECTion!アワード」創設
スポーツ庁など公的機関を巻き込んだ
永続的推進体制の確立
RESPECTion!文化の根付き一般化

RESPECTion!宣言
紙面連載
公式SNS発信
RESPECTion!フォト
RESPECTion!メッセージ
各種スポーツ大会でのプロモーション
イベント開催
RESPECTion!ウィークの制定
企業スポーツ団体とのコラボキャンペーン
映像や音声配信
国際女性デーと連携し
女性アスリートの「今」を発信
シンポジウム開催
など

【ムーブメント化】テーマ：「動く」

行動が変わる



ラグビーW杯

【世間認知&ブランド化】テーマ：「気づく」

価値観が変わる



冬季五輪



WBC



サッカーW杯



アジア大会

2026

RESPECTion!宣言

時代に合わせたアスリートの新しい応援文化や価値観、モラルを広く知らせ

「SNSでの誹謗中傷（拡散）はダサい、時代遅れ」の認識を幅広い世代に定着させる。

スポーツ界から社会全体へ波及するムーブメントに



RESPECTion!推進委員

◆**原共同代表** 「勝負の世界に身を置くアスリートにとって、皆様の応援は何よりの力になります。しかし、心ない言葉がその挑戦を阻むことがあってはなりません。失敗を責めるのではなく、不屈の精神に敬意を払い、共に高め合う駅伝のような熱いリスペクト文化を全国に広げたいと思っています。応援の力で社会を明るく変えていきましょう！」

◆**松本共同代表** 「SNS上での誹謗中傷や様々なハラスメント事案に接し、大きな困難を感じています。経済の長期停滞、将来への不安など、時代の閉塞感もあるのかもしれない。このような閉塞感を打破するための1つのキーワードが「リスペクト」ではないかと考えています。皆さまのリスペクトが日本社会発展の大きな力につながることを願っています。」

◆**栗山スーパーバイザー** 「今の時代、SNSの発達などでコミュニケーションが取りやすくなりましたが、いろんな思いが選手たちに向かってしまうことがあります。私が監督時代、ずっと選手たちに言ってきたこと、そして皆さんにお伝えしたいことは、人と話をする時、自分の思いを伝える時、まずは自分から受け手の体に入って、どう受け取るのかを考え、どのように伝えたら良いのか、それを考えていきたいと思います。これはスポーツだけではなく、一生懸命やっている人に対してどんな言葉をかけるのか。それを考えることが、日本人の持っている品位だと思います。みんなが相手の気持ちに立ってメッセージや思いを伝えられる、そんな社会になってほしいという願いを込め、みんなで力を尽くしていこうと思います。ぜひ、皆さんも協力していただいて、そんな素晴らしい日本にしていきたいです。」

◆**谷本委員** 「いつもアスリートへの温かい応援、ありがとうございます。アスリートにとって応援はチカラになります。一方で、心無い言葉はアスリートのパフォーマンスに大きく影響を及ぼしてしまいます。新たなプロジェクトを通して応援文化を醸成し、お互いが支えあう社会を作っていきたいと思っています。一緒にアスリートを応援しましょう。」

◆**寺川委員** 「アスリートを取り巻く環境は、自分自身が現役の頃と比べると大きく変化しているように感じます。SNS等を通じてアスリートが身近に感じられるようになった一方で、直接届く誹謗中傷も増えているのが現状です。いろんなことが便利になっている世の中だからこそ、その様々なルーツを良い方向に向けて、心から応援できるよう、リスペクト、そしてアクションの輪を広げていきたいと思います。」

◆**来田委員** 「アスリートは特別な存在ではありません。昨日の自分を超えようと努力する、私たちの仲間です。その歩みを支える言葉を世界に発信しましょう。誰かを深く傷つける言葉は、相手だけでなく、それを読む人の心や自分の尊厳も傷つけます。挑戦するすべての人を尊重し、応援する社会をともに広げましょう。」

◆**高橋委員** 「言葉は力になりますが、時に挑戦する人の尊厳を傷つける刃にもなります。心ない攻撃に晒されることなく、誰もが全力を出し切れる環境。それこそが、スポーツの未来を支える土台になると信じています。立場を超えて互いを敬い、その挑戦を支え合う。そんな当たり前の文化が根付くスポーツ界を目指して。一步ずつ、丁寧に取り組んでいければと思います。」

RESPECTion!アスリート

◆**杉原選手** 「私は体操を通して、挑戦することの大切さや、支えてくださる方への感謝をたくさん感じ、学んできました。だからこそ、アスリートの努力や挑戦がリスペクトされる社会であってほしいし、選手が安心して競技に向き合える環境を作ることが大切だと思っています。リスペクションの活動を通して、スポーツの価値や互いを尊重する気持ちが広がっていくことを願っています。」

◆**羽根田選手** 「スポーツは本来、人をつなぎ、社会に前向きな力を生み出すものだと思います。誹謗中傷は選手を傷つけるだけでなく、その挑戦をためらわせてしまうことにもつながります。互いを尊重し、挑戦する人を温かく見守る文化が広がってほしいと願っています。」

◆**文田選手** 「アスリートとして競技の結果にさまざまな声があるのは理解していますが、誹謗中傷はあってはならないものだと思います。アスリートがどうかに関わらず、誰かを傷つける言葉を向けてしまう人が生まれてしまう社会自体に課題があるとも感じています。互いを尊重し、思いやりの言葉が当たり前に交わされる社会になってほしいです。」

◆**樋口選手** 「僕はこれまで、多くの方の応援に支えられて競技を続けてきました。その一方で、誹謗中傷によって傷つくアスリートがいる現実もあります。スポーツは本来、人に勇気や希望を与えるものだと思います。挑戦する人を尊重し、互いを思いやる言葉が広がる社会になってほしいです。僕自身もスポーツを通して前向きな力を届けていきたいと思います。」



◆**自身も競技者として1976年モントリオール五輪にクレール射撃で出場した経験を持つ麻生太郎自民党副総裁** 「スポーツってのは、勝った負けたの結果だけを見てりゃいいもんじゃない。そのプロセスや努力の跡に敬意を払うのが、本当のファンというもの。だからこそSNSの使い方を間違っちゃいかん。応援の武器にするか、凶器にするか。その分かれ道がこのプロジェクトなんだろう。日本の新しい文化として定着させなきゃいかん。期待しています」

RESPECTion!宣言

① RESPECTをカルチャーへ

これまで積み上げてきた努力や背景を尊重する

② 心からの応援がチカラに

最高のパフォーマンスを生み出す応援を選手に届ける

③ アスリートの先に人間がいる

その言葉や画像を投稿する前に一度立ち止まる

④ チャレンジする姿勢にエールを

失敗を過度に責めず挑み続ける勇気を称える

⑤ 社会を変えるACTIONに

すべての人がより尊重される未来をスポーツからつくりだす

目標

⑤社会を変えるACTIONに

RESPECTion!

マイナスをゼロに

SNSで誹謗中傷をしない

③アスリートの先に人間がいる

容姿やミスを責めない
スポハラ根絶

④チャレンジする姿勢にエールを

プラスをつくる

RESPECTしやすい環境を創出

①RESPECTをカルチャーへ

応援の力を
アスリートに届ける

②心からの応援がチカラに

現状

SNS上での誹謗中傷や性的ハラスメントなど
アスリートを脅かす不安や恐れがある社会

線引き

対象

アスリートのパフォーマンスの場において

内容・人種・容姿に対するSNS上での誹謗中傷

対象外

アスリートのプライベートな問題などへの誹謗中傷

RESPECTion!基本施策

RESPECTion! RESPECTion! 公式SNS発信

RESPECTion! に関するニュースやショート動画を投稿します。シーズンの開幕日やプレーオフ、国際大会など様々な節目には「RESPECTion!メッセージ」を投稿。アスリート、団体・企業とともに拡散し大多数のSNSユーザーに広がります。

RESPECTion! RESPECTion!ウィーク

スポーツの日前後をRESPECTion!ウィークとして「RESPECTion!シンポジウム」や「RESPECTion!フェス(仮)」といったアスリートの凄みが感じられるイベントを実施します。

RESPECTion! メディア横断的展開

より多くの人へ届けるため、テレビ、Webメディア、SNS、イベントなど複数のメディアを横断した情報発信を展開します。それぞれのメディア特性を活かしながらコンテンツを連動させることで、アスリートへのリスペクトや健全な応援文化の重要性を継続的に発信します。

RESPECTion!

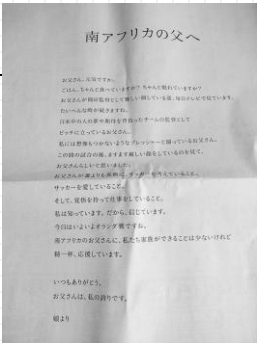
RESPECTion!メッセージ

スポーツの注目度が高まる大会 × 共感力の高いメッセージ

スポーツファンや世の中から注目を集める
スポーツイベントの当日に、その大会にまつわる有名選手や
出場選手を周りで支える人からの手紙・檄文を掲出

例：サッカー日本代表・岡田武史監督へ向けたメッセージ（新聞掲載）

「南アフリカの父へ」
お父さん、元気ですか。ごはん、ちゃんと食べていますか？ちゃんと眠れていますか？
お父さんが岡田監督として難しい顔している姿、毎日テレビで見えています。たいへんな
時が続きますね。日本中の人の夢や期待を背負ったチームの監督としてピッチに立っ
ているお父さん。私には想像もつかないようなプレッシャーと闘っているお父さん。
この間の試合の後、ますます厳しい顔をしているのを見て、お父さんらしいと思いま
した。お父さんが誰よりも真剣に、サッカーを考えていること。
サッカーを愛していること。そして、覚悟を持って仕事をしていること。私は知ってい
ます。だから信じています。
今日はいよいよオランダ戦ですね。南アフリカのお父さんに、私たち家族ができること
は少ないけれど、精一杯、応援しています。
いつもありがとう。お父さんは、私の誇りです。
娘より



- ▶ 実施案
- 6月：サッカーW杯
ケガなどで本大会へ出場できなかった選手から
出場メンバーへ向けたメッセージ。予選などで共
に戦ったからこそ伝えられる言葉を送る。
- 9月：アジア大会
病を乗り越えたアジア大会出場アスリートがこ
れまで支えてくれた家族や仲間へ贈る感謝と決意
のメッセージ。

原稿のメッセージを求心力にSNSでの話題化へ
スポーツジャンルを跨いだ定例的な活動でRESPECTion!
活動の旗印かつ、ファンが期待を寄せるコンテンツに

RESPECTion!

RESPECTion!フォト

ウェブ × リアル × ここだけの秘蔵写真
スポーツイベントの期間中や終了後の振り返りとして
普段は表に出ない努力の跡やアスリートの素顔に触れられる写真を
RESPECTion!公式SNSで発信する
実際に写真展を開いて周知を広めることも視野に



被写体のメッセージ性とインパクトからSNSで話題化へ
アスリートや競技のファンはもちろん
誹謗中傷の投稿件数が最も多い世代である
10代や20代に直接刺さることで価値観を変えるきっかけに

RESPECTion!推進委員やアスリート、団体・企業のSNSアカウントへ
発信協力を仰ぎ、SNSでの拡散を狙う

RESPECTion!ウイーク施策案

RESPECTion!

RESPECTion!カップ

【テーマ：現場で育む、次世代のRESPECT】

少年少女を対象とした、RESPECTion!の理念をスポーツの現場で体現する大会です。単に勝敗を競うだけでなく、「ミスを責めない」、「味方や相手選手、審判をリスペクトする」、「怒らない」といった本プロジェクトならではの文脈や特別ルールを盛り込みます子供たちが純粋に競技を楽しみながら、健全なスポーツマンシップと他者への敬意を実践を通して学ぶ機会を創出します。

具体的なコラボレーション施策案（少年野球の場合）

- ・栗山英樹スーパーバイザーによる「RESPECTion!メッセージ」の発信
 - ・全参加チームのヘルメットに「RESPECTion!ロゴステッカー」貼付
 - ・「RESPECTion!賞」としてチームを表彰
- 勝敗の結果にかかわらず、最も清々しい態度や相手への敬意ある行動を示したチームを選出し、表彰します。



RESPECTion!

日 時：2026年10月10日（土）ごろ～
会 場：全国
ターゲット：小学生～中学生

ターゲット層が異なる3つのイベント（子供向けの大会、有識者・大人向けのシンポジウム、全世代向けのフェス）を並べることで、このウイークが「あらゆる世代・立場の人を巻き込むムーブメント」であることを強調できる構成にしています。

RESPECTion!

RESPECTion!シンポジウム

【テーマ：社会課題として向き合う議論の場】

「とってもいいね！アスリートとファンの新しいAction（仮）」などをテーマに、アスリートを取り巻くSNSでの誹謗中傷やハラスメント問題について正面から向き合う150～200人規模の硬派なシンポジウムです。有識者や推進委員（OB・OGアスリート）、現役選手らが登壇し、現場のリアルな声や心理的影響、法的側面などから深く議論します。スポーツ界の課題を社会全体の課題として捉え直し、解決に向けたメッセージを強く発信する場とします。

日 時：2026年10月11日（日）14時～16時（仮）
会 場：都内（仮）
人 数：150人規模
費 用：無料（申し込み制）
ターゲット：高校生～シニア層

RESPECTion!

RESPECTion!フェス

【テーマ：誰もがアスリートの「凄み」を肌で感じる運動会】

子供からシニア、国籍を問わず、誰もが自由に参加できる「運動会」のようなインクルーシブな大型イベントです。トップアスリートの圧倒的な技術や身体能力を間近で見学・体験できるコンテンツや、自分の数値とアスリートの数値を比べられる体力測定などを実施します。一流の凄みを肌で直に体感することで、理屈ではなく心からの「驚き」と「RESPECTの念」が自然と湧き上がる、ポジティブな行動変容のきっかけを提供します。



～プログラム例～
アスリートと鬼ごっこ
チビっ子〇人VSアスリート
アスリートに挑もう！ワクワク体力測定
健康器具メーカー×アスリート×地元老人クラブ
食品メーカーと食育・アスリート飯企画

日 時：2026年10月12日（月・祝）10時～16時（仮）
会 場：都内（仮）
人 数：参加自由
費 用：無料（一部申し込み制）
ターゲット：全世代

その他の施策案

RESPECTion!

ロゴマーク

様々なスポンサー企業や団体のロゴと並んだときにも違和感のないシンプルで力強い造形を意識しています。

●ロゴマーク

RESPECTion!の「R」に抽象化した躍動するアスリートの姿を重ね合わせました。

影はRESPECTion!の「!」にすることで、世間から見える輝かしい姿の影には

驚きの努力の積み重ねがあることを表現しています。

●ロゴタイプ

頭文字はロゴマークのRを使用。文字は可読性を担保しつつも親しみやすいフォントを使用。ロゴマークの傾きに合わせて斜体をかけることで統一感を出しています。



RESPECTion!

シンポジウム

「とってもいいね!アスリートとファンの新しいAction」、
「心理面が与えるパフォーマンスへの影響」などをテーマに
有識者が登壇。心と体の関係性について理解を深めます。



RESPECTion!

有識者による特別授業

小中高大さまざまな教育機関などを対象に、RESPECTion!
推進委員らが登壇し特別授業を行います。誹謗中傷や晒し、
無自覚な加害が生まれる背景を伝えることで、「投稿前に立
ち止まる習慣、が身につけます。



RESPECTion!

RESPECTion!アワード

模範的な応援活動や報道、教育など様々なジャンルからプロジェクトに賛同する企
業・団体・個人を表彰します。#RESPECTion!がつけられた投稿の中から最も「いいね」
のついた投稿を表彰するなど種類は多岐にわたります。

RESPECTion!

アスリートが母校などに先生として凱旋…一流に触れられる機会を創出

地元の先輩・後輩という関係性の中で、自然と尊敬の念が生まれる環境を創出し各種メディアで取り組みを発信します。

RESPECTion!

企業・団体とのコラボ



各企業のサービスや商品、店舗、イベント、SNSなど多様な接点を
活用し、社員参加型のキャンペーンや店頭プロモーション、共同コ
ンテンツの制作などを通じて、企業活動と社会課題解決を結びつけ
ます。

RESPECTion!

動画配信



小学生から大人まで様々な世代を対象に多種多様なショート動画な
どを制作し発信します。アスリートの日頃の努力や苦悩、裏側などを
クローズアップします。

RESPECTion!

国際女性デー

国際女性デー（3月8日）の前後に、女性アスリートの「今」を各メディアが特集。安
心安全な競技環境づくりへの取り組みを発信します。

RESPECTion!

社員・アスリートへの研修



社員にはSNS時代のリテラシーや企業として支える姿勢を、アスリート
には誹謗中傷への向き合い方や心のケアから話し方など発信面まで、
競技生活を支える知見を提供します。

RESPECTion!

公的機関との連携

スポーツ庁やNPO、教育機関などと連携し、継続運営と全国的な活動の広がりを目指し
ます。また、それぞれの機関と接していくことで法整備の検討も視野に入れます。

年間テーマ「気づく」

2026年3月

RESPECTion!宣言

ロゴマーク露出
メインビジュアル公開
公式SNS開設
公式HPオープン

6月

サッカーW杯

RESPECTion!メッセージ
RESPECTion!フォト

9月

アジア大会

RESPECTion!メッセージ
RESPECTion!フォト
RESPECTion!推進委員会
推進委員会議

10月

RESPECTion!ウイーク

RESPECTion!カップ
RESPECTion!シンポジウム
RESPECTion!フェス

2027年1月

箱根駅伝、大阪国際女子マラソン

RESPECTion!メッセージ
RESPECTion!フォト

3月

RESPECTion!推進委員会
推進委員会議

4月以降

ワールドマスターズゲームズ2027関西

RESPECTion!メッセージ
RESPECTion!フォト



開催日時：2026年3月26日（木）14時～15時

開催場所：日本プレスセンターホールA
（千代田区内幸町2-2-1 日本プレスセンタービル10階）

主 催：RESPECTion!推進委員会

後 援：スポーツ庁
一般社団法人日本経済団体連合会
公益社団法人 関西経済連合会

登壇者：共同代表 原晋（青山学院大学陸上競技部 長距離監督）
共同代表 松本泰介（早稲田大学スポーツ科学学術院教授・弁護士）
推進委員 谷本歩実（柔道元日本代表）
推進委員 高橋駿（COAS代表）
推進委員 岩田史昭（JSPO常務理事兼事務局長）※14時30分ごろ退席予定
推進委員 伊藤弘一（JOC理事兼事務局長）
アスリート 文田健一郎（ミキハウス）
司会：石本沙織アナウンサー

取材申込社

フジテレビジョン
TBSテレビ
株式会社テレビ東京
産経新聞社
読売新聞社
朝日新聞社
日本経済新聞社
中日新聞社
中日新聞東京本社
共同通信社

時事通信社
サンケイスポーツ
スポーツ報知
日刊スポーツ
東京スポーツ新聞社
スポーツニッポン新聞社
デイリースポーツ
株式会社Creative2
（株）日本運動具新報社



フジテレビ／Live News イット!



テレビ東京／スポーツ リアライブ～SPORTS Real&Live!～





3月27日付産経新聞（1面、3面）



3月27日付サンケイスポーツ（最終面、7面）※東京本社版



スポーツ報知



日刊スポーツ



3月29日付産経新聞



3月30日付産経新聞



誹謗中傷やハラスメントからアスリートを守れ
「RESPECTion!」始動

掲載

2026/03/26 17:00

スポーツ | 総合 RESPECTion! | 掲載



アスリートに対するSNSでの誹謗（ひぼう）中傷、悪質な性的ハラスメントが近年増加化する中、選手が安心して競技に専念できる社会を目指すプロジェクト

青学大・原晋監督「大阪の、とある高齢のおばあちゃんからお手紙をいただいた」 リスベクション発足を見て、ファンレターの内容を明かす

3/26(木) 22:11 配信



リスベクション宣言する、青学大・原晋監督「26日午後、東京都千代田区（報道関係者向け）」

アスリートに対するSNSでの誹謗中傷などが近年問題となる中、新しい応援文化の醸成と、選手が安心して競技に打ち込める環境づくりを目指すプロジェクト「RESPECTion!（リスベクション）」が発足し、同推進委員会が26日、東京都内で会見を開いた。共同代表を務める青学大・原晋監督（59）、弁護士で早大スポーツ科学学術院の松本泰介教授（45）が就任。5つの活動指針を宣言した。

原監督は会見で、「実は本学でもですね、箱根駅伝に勝ちますと、多くのファンレターをいただきます。ひとつづつ紹介させていただきますと、大阪の、とある高齢のおばあちゃんからお手紙をいただいたんですね」と切り出し「うちの孫は昔は結構のめりない、体を動かすこともないし、どちらかと言うと内気な孫だった。しかし、小学校の卒業論文の中で『僕はマラソン大会、足が速い、いつも他の後ろの方を走っている。でも負けたくない。青学の駅伝選手の子生さんは、みんなたくさん練習して努力して、あんな成績を収めているんだ。テレビを通じて僕は嬉しかった。じゃあ僕も一生懸命努力をして、マラソン大会頑張っていく』というような文章だった」と明かした。

アスリート誹謗中傷対策へ新プロジェクト始動 共同代表に青学大・原晋監督「褒める方が記録生まれる」

3/26(木) 19:15 配信

FNNプライムオンライン

深刻化するアスリートへの誹謗中傷を解決するため、新たなプロジェクト「リスベクション」が始動しました。

青学大・原晋監督「褒める方が記録生まれる」



FNNプライムオンライン

SNSでの誹謗中傷をしない、アスリートをリスベクトし、正しい応援の仕方を教えることが目的です。

先日のミラノ・コルティナオリンピックでも、日本オリンピック委員会が1919件の悪質な投稿について削除申請を行うなど、アスリートのための対策は進んでいます。

社会

2026.03.26

「誹謗中傷はダメ」課題解決へ新プロジェクト始動 青学大・原晋監督「スポーツ界から発信、よりよい社会を」

著者：ENCOUNT編集部/クロスメディアチーム

タグ：RESPECTion! 原晋

近年SNS上での誹謗（ひぼう）中傷や性的ハラスメントが深刻化する中で、SNSでの心ない投稿によってアスリートの心身が傷つけられる被害も大きな問題になっている。課題解決に向けて、現役アスリート、アスリートのOB・OG、有識者が立ち上がった。時代に合わせた新しい応援文化の醸成と、アスリートが安心して競技に打ち込める環境づくりを推進するプロジェクト「RESPECTion!（リスベクション）」が始動し、26日に都内で記者会見が行われた。共同代表を務める、青学大・原晋監督、松本泰介教授の原晋監督は「よりよい社会を実現していくため、まずはスポーツ界から発信させていければ」と語った。

スポーツ新聞 読者サイト「ポータル」に掲載「選手たち」登場！



「リスベクション」宣言する、青学大・原晋監督「26日午後、東京都千代田区（報道関係者向け）」

アスリートに対するSNSでの誹謗中傷などが近年問題となる中、新しい応援文化の醸成と、選手が安心して競技に打ち込める環境づくりを目指すプロジェクト「RESPECTion!（リスベクション）」が発足し、同推進委員会が26日、東京都内で会見を開いた。共同代表を務める青学大・原晋監督（59）、弁護士で早大スポーツ科学学術院の松本泰介教授（45）が就任。5つの活動指針を宣言した。

原監督は会見で、「実は本学でもですね、箱根駅伝に勝ちますと、多くのファンレターをいただきます。ひとつづつ紹介させていただきますと、大阪の、とある高齢のおばあちゃんからお手紙をいただいたんですね」と切り出し「うちの孫は昔は結構のめりない、体を動かすこともないし、どちらかと言うと内気な孫だった。しかし、小学校の卒業論文の中で『僕はマラソン大会、足が速い、いつも他の後ろの方を走っている。でも負けたくない。青学の駅伝選手の子生さんは、みんなたくさん練習して努力して、あんな成績を収めているんだ。テレビを通じて僕は嬉しかった。じゃあ僕も一生懸命努力をして、マラソン大会頑張っていく』というような文章だった」と明かした。

「リスベクション」宣言する、青学大・原晋監督「26日午後、東京都千代田区（報道関係者向け）」

アスリートに対するSNSでの誹謗中傷などが近年問題となる中、新しい応援文化の醸成と、選手が安心して競技に打ち込める環境づくりを目指すプロジェクト「RESPECTion!（リスベクション）」が発足し、同推進委員会が26日、東京都内で会見を開いた。共同代表を務める青学大・原晋監督（59）、弁護士で早大スポーツ科学学術院の松本泰介教授（45）が就任。5つの活動指針を宣言した。

「リスベクション」宣言する、青学大・原晋監督「26日午後、東京都千代田区（報道関係者向け）」

選手の中傷撲滅へ新プロジェクト 青学・原氏「画期的なスタート」

3/26(木) 18:13 配信



「リスベクション」プロジェクトの発足記者会見で記者会見。

深刻化するアスリートへの誹謗中傷や性的ハラスメントの撲滅に向け、選手や関係団体が一丸となって取り組む「リスベクション」プロジェクトの発足記者会見が26日、東京都内で開かれ、共同代表を務める青学大・原晋監督、松本泰介教授の原晋監督は「初めての体系的な取り組み。画期的なスタート」と意義を語った。

啓発活動やシンポジウム、交流サイト（SNS）でのキャンペーンを通じて、中傷などの根絶とともに、選手に敬意を持ち、応援する機運の醸成を目指す。現役選手ではカヌー男子の羽根田卓也やレスリング男子の文田健一郎（ともにミキハウス）らが参加し、日本オリンピック委員会（JOC）や日本スポーツ協会、弁護士も協力する。

誹謗中傷抑止へ新プロジェクト 選手尊重の文化を

3/26(木) 18:57 配信



選手への誹謗中傷抑止を目指す新プロジェクトを発足した。

アスリートに対するSNS上での誹謗（ひぼう）中傷や性的ハラスメントを抑制し、選手が尊重される文化の醸成を目指す新プロジェクト「リスベクション」の発足記者会見が26日、東京都内で開かれた。

注目度の高い大会に合わせて企業や団体の協力を仰ぎ、選手が努力する過程に焦点を当てた写真や応援メッセージなどをSNSで拡散する。10月には子供向けのスポーツ大会やシンポジウムを開催予定。

プロジェクト名は「リスベクト（敬重）」と「アクション（行動）」を組み合わせた。青学大・原晋監督、松本泰介教授が共同代表を務め、レスリング男子（リビュン）の文田健一郎（ミキハウス）、カヌー男子の羽根田卓也（同）ら現役選手も参加。原氏は「リスベクトをカルチャー（文化）へ」「チャレンジする姿勢にエールを」となど五つの活動指針を宣言した。

誹謗中傷根絶プロジェクト「リスベクション」 発表会見に青学大・原晋監督が出席「プロセスを見たら誰も誹謗中傷できない」

3/26(木) 18:13 配信



「リスベクション」発表会見に出席した青学大・原晋監督

SNS上でのアスリートへの誹謗中傷や性的ハラスメントを減らし、アスリートが安心して競技に打ち込める環境づくりを推進する新プロジェクト「リスベクション」の発表記者会見が26日、都内で開かれた。共同代表を務める青学大・原晋監督、松本泰介教授の原晋監督は「初めての体系的な取り組み。画期的なスタート」と意義を語った。

昨今、SNSの普及と同時に、誹謗中傷や女性アスリートへの性的ハラスメントが増加していることが社会問題となっている。そんな中、2月に行われたミラノ・コルティナ五輪では、初の試みとしてSNSを24時間監視。AIと目視により確認された大会関連の3万5975件の投稿のうち、1913件に対して削除申請された。